

令和4年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和4年9月12日
上富良野町教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の期日 令和4年4月19日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富 良 野		北 海 道		全 国	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	71	949	34,309	18,867	965,308
中学校	1	63	567	32,910	9,762	965,308

II 調査の結果

(※今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。)

1 児童生徒の学力の状況

(1) 小学校

教科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国語	64.0	65.6	全国平均をやや下回る
算数	61.0	63.2	全国平均を下回る
理科	63.0	63.3	全国平均を下回る

(2) 中学校

教科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国語	69.0	69.0	全国平均をやや下回る
数学	49.0	51.4	全国平均を下回る
理科	49.0	49.3	全国平均を下回る

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3
「ほぼ同様」 ±1
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

小学校は、国語・算数・理科ともに全国平均正答率を下回っている。国語では、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」に成果が見られるが、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」に課題が見られる。

算数では、「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方を理解している」に成果が見られるが、「数量が変わっても割合が変わらないことを理解している」に課題が見られる。

理科では、「問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」に成果が見られるが、「日光は直進することを理解している」に課題が見られる。

中学校は、国語・数学・理科ともに全国平均正答率と下回っている。国語では、「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」に成果が見られるが、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」に課題が見られる。

数学では、「確率の意味を理解している」に成果が見られるが、「筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明する」に課題が見られる。

理科では、「水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す」に成果が見られるが、「物体にはたらく重力とつり合う力について説明できる」に課題が見られる。

2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

※ は全国平均より (+5) 以上 は全国平均より (-5) 以下を表しています。

(1) 家庭での生活・学習について

○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	95.8	94.3	92.0	91.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	71.8	81.5	88.9	79.9
毎日、同じくらいの時刻に起きている	87.1	90.4	96.9	92.2
家で、計画を立てて勉強している	81.7	71.1	66.6	58.5

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？

(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	1.4	11.3	31.0	38.0	16.9	1.4
全 国	11.3	13.8	34.3	25.8	10.5	4.2
中学校	0.0	17.5	55.6	14.3	11.1	1.6
全 国	9.9	25.3	34.3	17.0	8.5	4.9

○平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	10分～30分	10分以下	全くしない
小学校	4.2	5.6	14.1	26.8	19.7	29.6
全 国	7.2	10.1	19.1	23.2	14.1	26.3
中学校	1.6	9.5	14.9	21.3	12.7	39.7
全 国	4.6	7.8	14.9	20.6	12.3	39.0

○平日、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか？

(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)

	4時間以上	3～34時間	2～3時間	1時間～2時間	1時間未満	全くしない
小学校	21.1	18.3	28.2	19.7	4.2	7.5
全 国	17.2	13.5	19.5	25.9	16.4	7.5
中学校	9.5	14.3	27.0	23.8	19.0	6.3
全 国	16.3	13.5	20.5	21.0	16.7	11.9

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いている。「家で計画を立てて勉強している」割合は、小・中学生とも、全国より約8%～10%多い。勉強時間では、1時間以上勉強しているのは、小学生で約15%少ないが、中学生では約4%多くなっている。

読書時間については、「全くしない」小学生は、全国より約3%少なくなっているが、中学生は、全国とほぼ同様の割合となっている。

一方、「平日、1時間以上ゲームをしている」小学生は、全国より約11%、中学生は全国より約3%と多くなっている。

(2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
自分には、よいところがある	70.4	79.3	69.8	78.5
将来の夢や目標を持っている	68.8	79.8	77.7	67.3
自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている	91.5	87.2	88.8	86.6
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している	81.7	72.5	69.4	67.1
学校に行くのは楽しい	93.0	85.4	79.4	82.9
いじめは、どんな理由があってもいけない	95.8	96.8	96.8	96.4
人の役に立つ人間になりたい	97.2	95.1	93.7	95.0
国語の勉強は好き	69.1	59.2	66.6	61.9
国語の授業の内容はよく分かる	81.7	84.0	92.0	81.2
国語で学習した内容は、将来、社会に出た時に役に立つ	84.5	91.8	95.3	89.7
算数・数学の勉強は好き	62.0	62.5	46.0	58.1
算数・数学の授業の内容はよく分かる	73.3	81.2	76.2	76.5
算数・数学で学習した内容は将来、社会に出た時に役に立つ	95.8	93.3	73.0	66.4
理科の勉強は好き	89.1	79.7	63.5	66.4
理科の授業の内容はよく分かる	85.9	88.5	76.2	75.2
理科で学習した内容は、将来、社会に出た時に役に立つ	62.0	77.2	58.7	61.5
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	71.9	77.3	79.4	79.2
授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した	47.9	65.4	55.6	63.3
話し合う活動を通じて自分の考えを深め広げることができている	73.2	80.1	84.1	78.7
授業でPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した	81.6	83.2	63.5	80.6
自分で調べる場面でPC・タブレット等のICT機器を週1回以上使用した	81.6	76.2	39.7	71.7
友達と意見交換する場面でPC・タブレット等のICT機器を週1回以上使用した	31.0	49.4	6.4	43.5
発表する場面でPC・タブレット等のICT機器を週1回以上使用した	32.4	28.6	4.8	35.3
PC・タブレットなどのICT機器は勉強の役に立つ	94.4	94.4	88.9	92.6

「自己肯定感」は、小学生・中学生ともに全国よりも約19%ほど下回った。「将来の夢や目標」は、中学生は全国より10%ほど上回っているが、小学生が全国より約11%下回った。「人の役に立つ人間になりたい」の「自己有用感」は、小・中学生ともに大変高くなっている。「失敗を恐れず挑戦する」は、小・中学生とも全国よりも高くなっていて、特に小学生が非常に高い。

「学校へ行くのは楽しい」は、小学生が90%を超え、全国よりも上回っている。さらに「いじめについての理解度」は小・中学生ともに、大変高くなっており、「いじめはどんなことがあてもいけないこと」という意識が強くなっている。

PC・タブレット等のICT機器の使用頻度（週1回以上）は、小学生では80%台と全国とほぼ同様であるものの、中学生では、全国よりも17%下回っている。また、授業のどの場面でPC・タブレット等が活用されているかは、小・中学生ともに一番多い場面が「調べる場面」で「意見を交換したり、発表する場面」での活用は、極端に少なくなっている。

PC・タブレット等のICT機器が「勉強に役に立つ」は、小・中学生とも高い割合を示している。

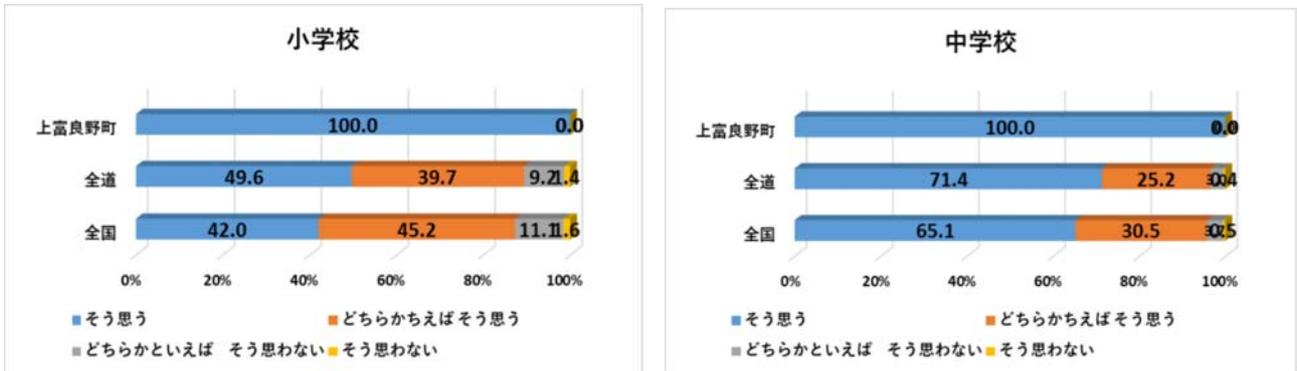
(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
地域行事に参加している	57.8	62.7	47.6	40.0
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	40.9	51.3	39.6	40.7
自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある	74.6	65.1	50.7	55.0
新聞を週1回以上は読んでいます	25.3	26.9	25.4	20.9
自分の家には101冊以上、本がある(雑誌・新聞・教科書以外)	25.4	35.3	42.8	33.5

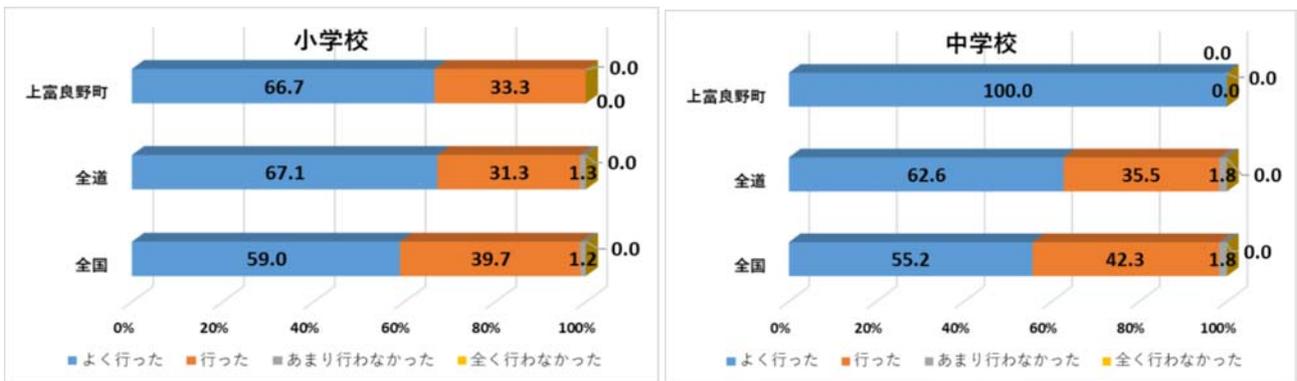
「地域行事への参加」は、小学生では、全国より下回っているが、50%を超えている。一方、中学生では、全国より高いが、50%以下となっている。
 「地域や社会に対する関心」は、小・中学生ともに、全国を下回った。
 「自然の中で遊ぶことや自然観察の経験」は、中学生よりも小学生の割合が高い。これは、全国も同じ傾向である。
 自宅の蔵書数は、全道・全国とも101～200冊が一番多く、本町も同様の傾向である。
 「新聞を週1回以上読むこと」については、全国の傾向も高くはないが、本町では、小学生に比べ、中学生の割合が高く、中学生になると新聞を読むようになってくる傾向である。

1 学校質問紙の傾向

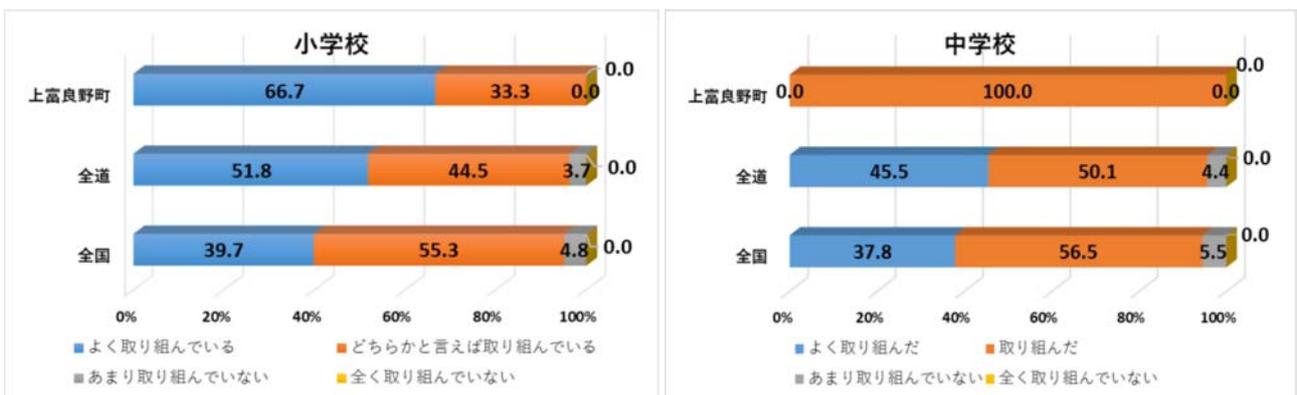
(1) 児童生徒は、授業中の私語は少なく、落ち着いていますか。



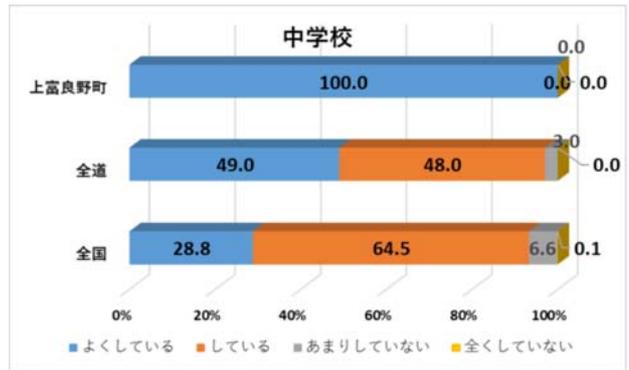
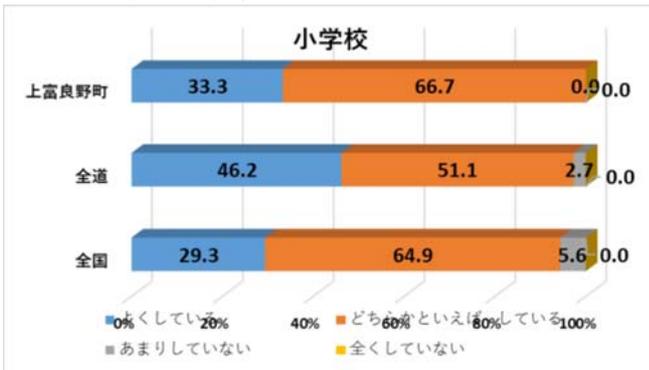
(2) 児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する(褒める)取組を行いましたか



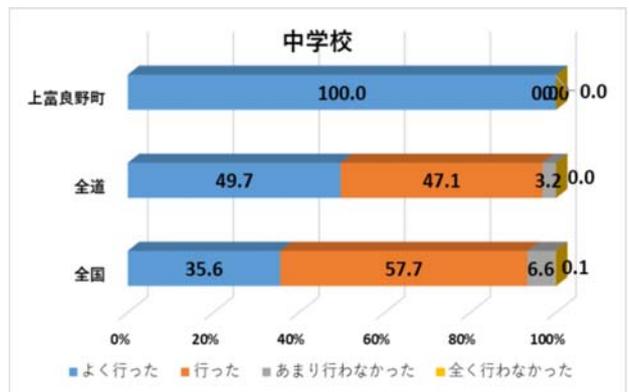
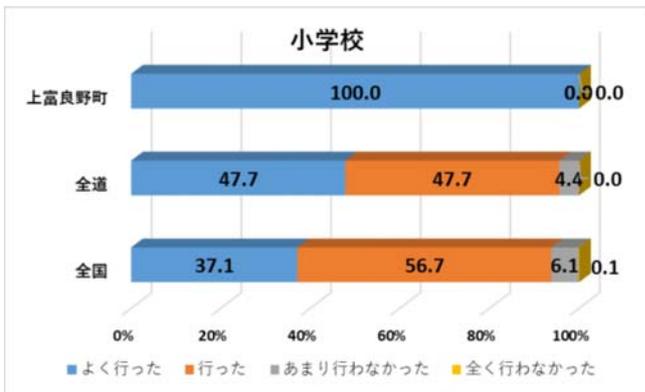
(3) ICTを活用した校務の効率化(業務の軽減)に取り組んでいますか



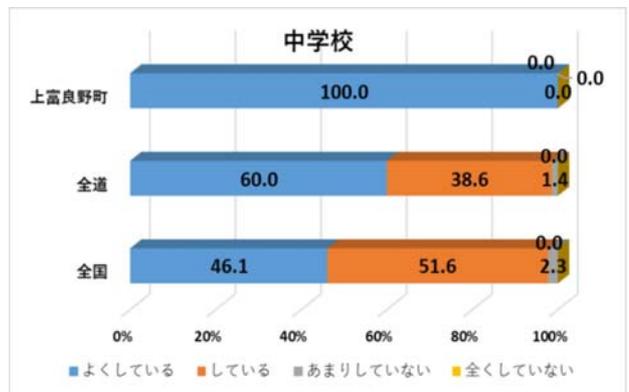
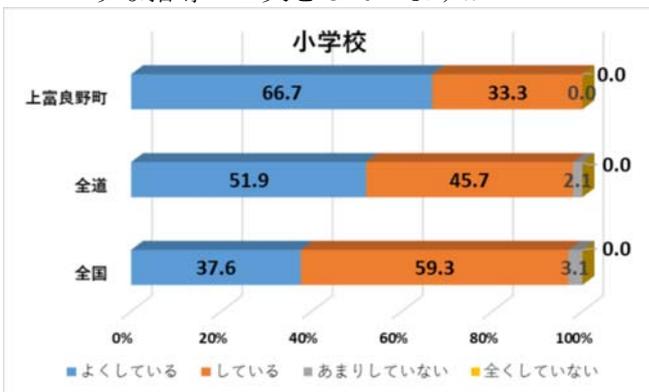
(4) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



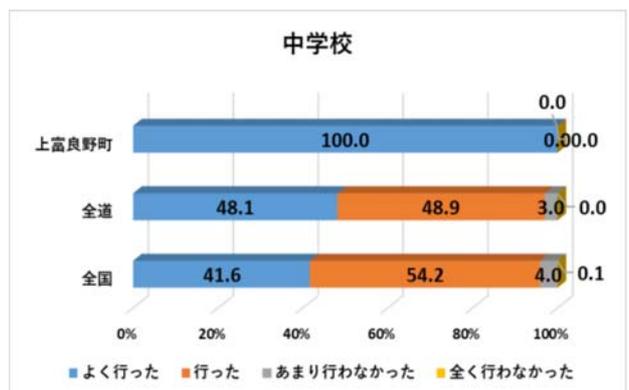
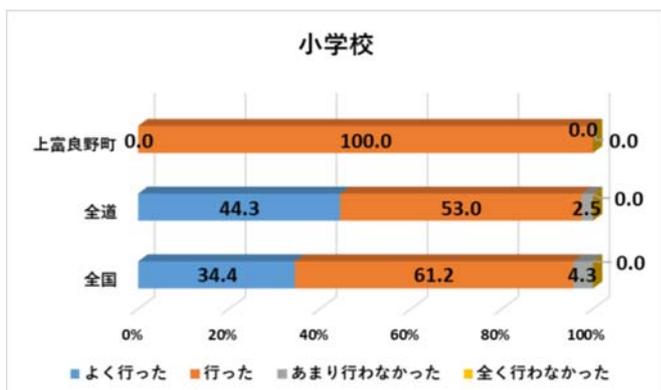
(5) 学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。



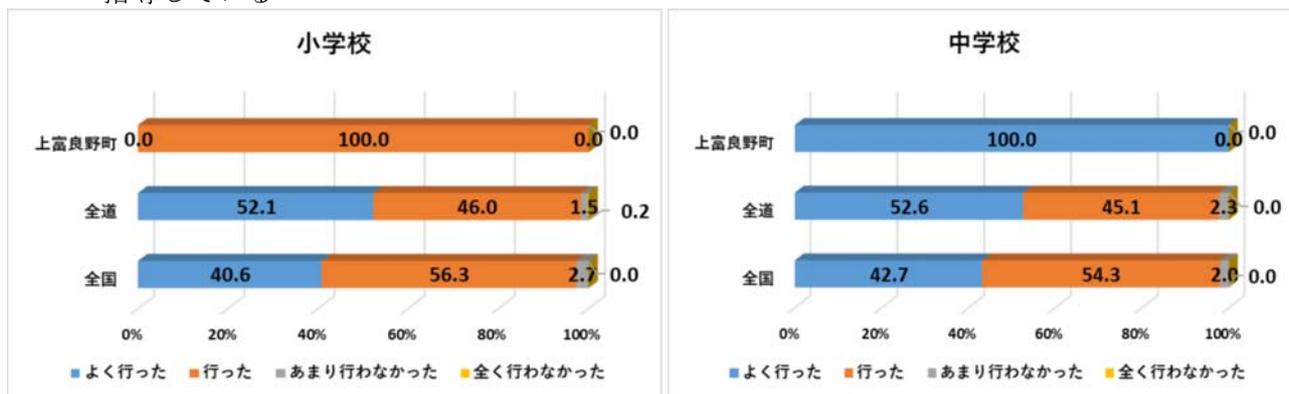
(6) 「特別の教科 道徳」において、児童生徒自ら自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



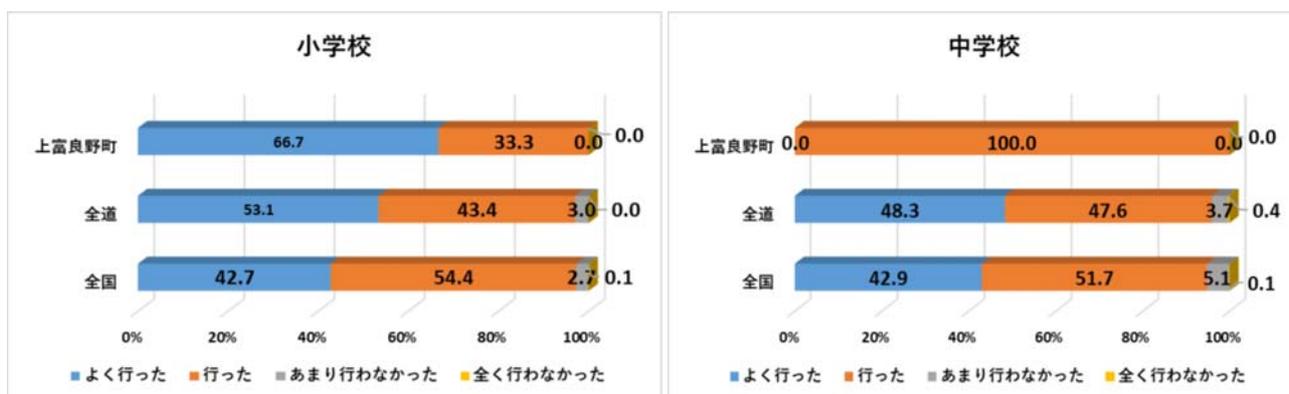
(7) 国語の指導として、目的に応じて、自分の考えと理由との関係を明確にして書いたり、表現を工夫したりする指導をしている



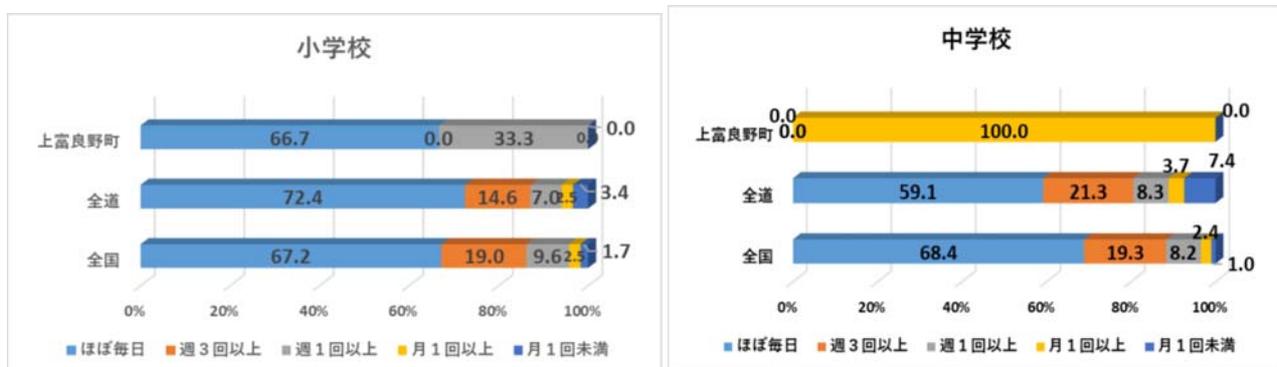
(8) 算数・数学の指導として、公式のきまり、計算の仕方等のわけを理解できるように工夫して指導している



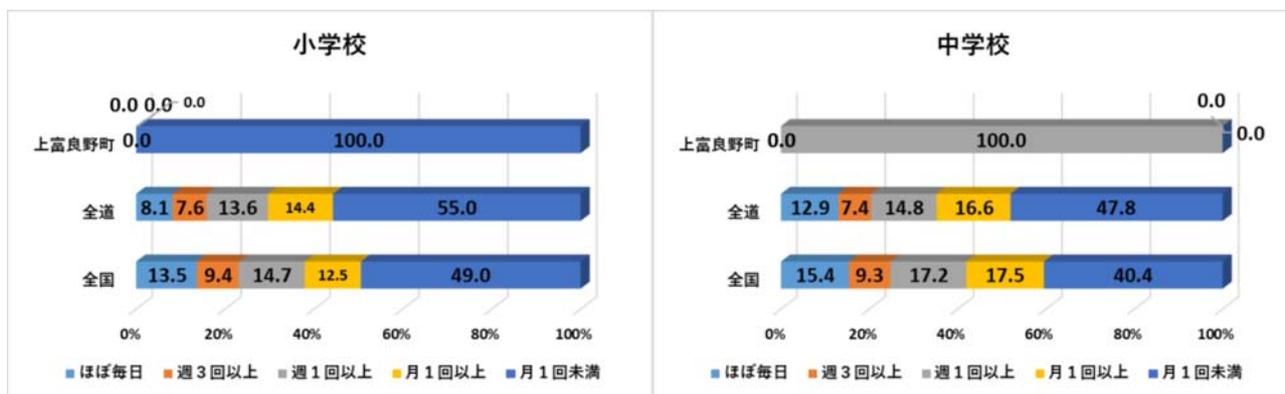
(9) 理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか



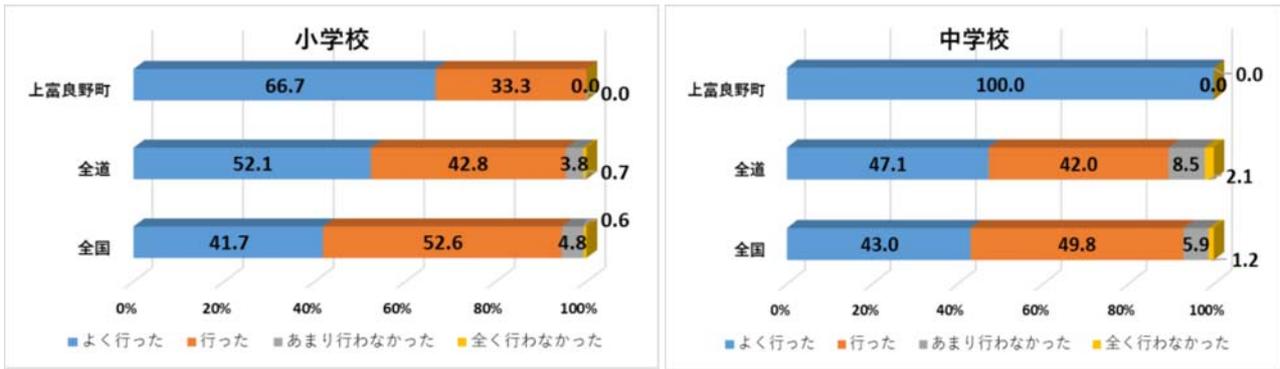
(10) 大型提示装置等の ICT 機器を活用した授業を 1 クラス当たり、どの程度行いましたか



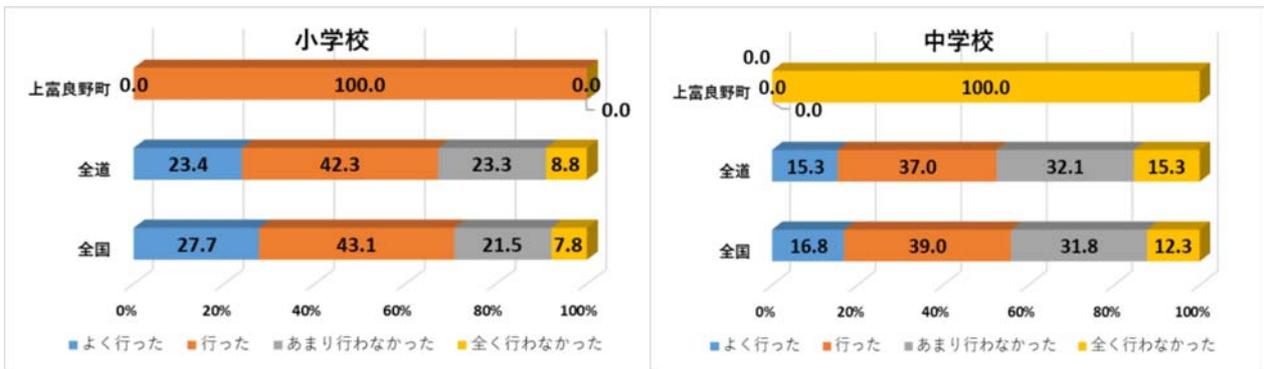
(11) PC・タブレット等の ICT 機器について、不登校児童生徒の学習活動の支援として、どの程度活用していますか



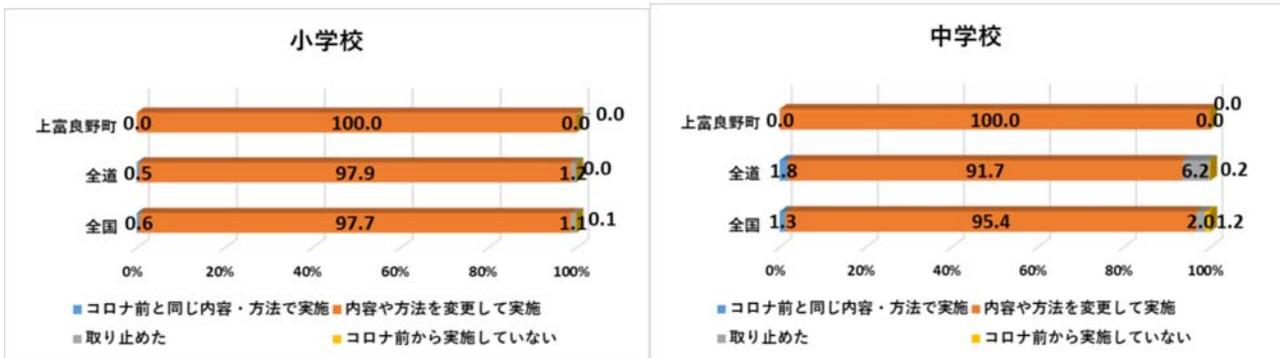
(12) 特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導の工夫（板書、説明、教材の工夫等）を行っていますか



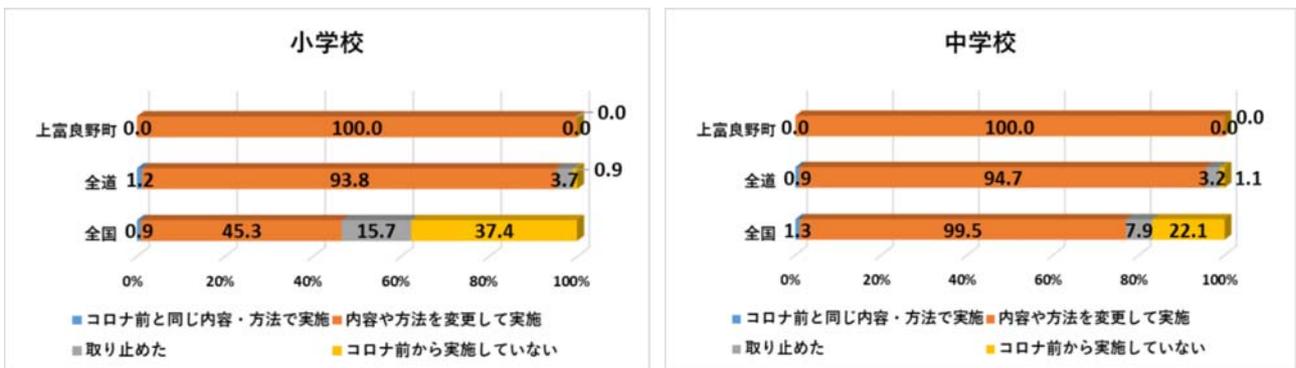
(13) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働により活動を行いましたか



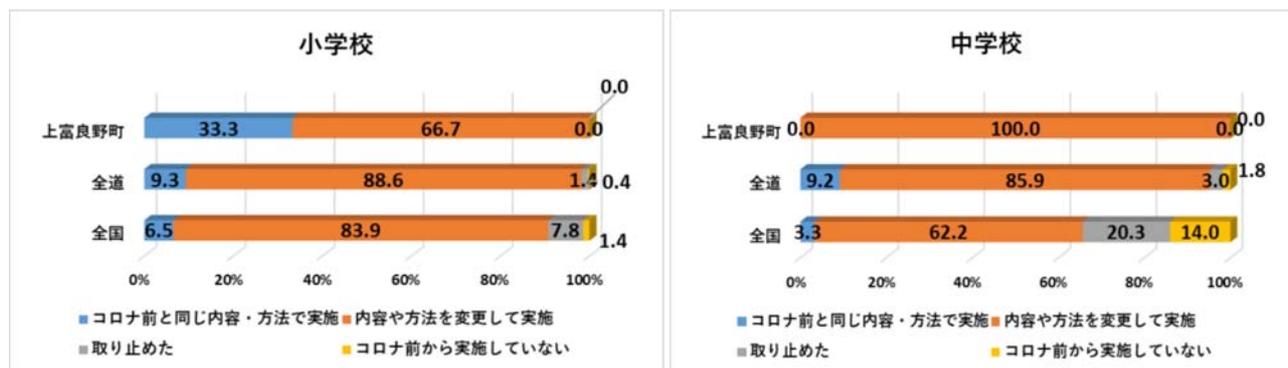
(14) 前年度に、運動会・競技会・球技会をどのように実施しましたか



(15) 前年度に、学芸会・学校祭をどのように実施しましたか



(16) 前年度に、集団宿泊活動（修学旅行も含む）をどのように実施しましたか



- 小・中学校ともに、授業中は、集中し、落ち着いて学習に取り組まれている。
- 小・中学校ともに児童生徒の良さや可能性を見つけ評価する共感的な指導を通し、自己肯定感を高めようとしている。が、児童生徒質問での「自己肯定感」はあまり高くなっていない。
- ICT 機器等を活用しての校務の効率化（業務の軽減）の地理は、小・中学校いずれも進められているが、全国でも小・中学校ともに95%を超える学校で取り組まれている。
- 小・中学校ともに、PDCA サイクルが確立され、様々なデータ等を基に、教育課程の編成・実施・評価・改善がなされている。
- 学級や学校をよりよくするための話し合い（学級活動）では、自分と違った意見などからもその良さを見いだし、合意形成していくような指導がなされている。
- 「特別の教科 道徳」において、課題を自分事として捉えて考え、話し合うことを重視し、「議論する道徳」にむけた授業改善が進められている。
- 国語の指導において、全国同様に「自分の考えに対する理由を明確にして表現する」指導を、小・中学校ともに十分行われている。
- 算数の指導においては、全国同様に、「公式のきまりや計算の仕方等」のわけを説明できるように、小・中学校ともによく行われている。
- 理科の指導においても、全国同様に「観察や実験の結果を整理し、考察する授業」が進められている。
- 「大型提示装置等の ICT 機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行われているか」については、全国では小・中学校ともに、「ほぼ毎日」が、60%を超えているが、本町においては、中学校での活用頻度が低くなっている。
- 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度活用しているかについては、小学校より中学校のほうが活用頻度は高く、このことは全国でも同様の傾向である。
- 小・中学校ともに、特別支援教育について、共通理解を図りながら、児童生徒の特性に応じた指導の工夫が進められている。
- コミュニティ・スクールの仕組みを生かした保護者や地域の人との協働的な活動の実感は、小学校のほうが高くなっている。中学校では「全く実施されなかった」との回答だが、登校時の見守りや部活動支援については、実施されている状況である。
- コロナ禍2年目となっていた昨年（令和3年）度の「運動会・体育大会」「学芸会・学校祭」「宿泊研修や修学旅行」の実施状況は、小・中学校ともに「内容や方法を変更して実施した」という状況であった。このことは、全国も同様の傾向となっている。

III 現状と今後の取組

1 前ページの「II 調査の結果 1 児童生徒の学力状況」で示した通り、小学校は、国語・算数とも全国平均正答率を下回っている。国語では、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」に成果が見られるが、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」に課題が見られる。

算数では、「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方を理解している」に成果が見られるが、「数量が変わっても割合が変わらないことを理解している」に課題が見られる。

理科では、「問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」に成果が見られるが、「日光は直進することを理解している」に課題が見られる。

中学校は、国語・数学ともに全国平均正答率と下回っている。国語では、「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」に成果が見られるが、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」に課題が見られる。

数学では、「確率の意味を理解している」に成果が見られるが、「筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明する」に課題が見られる。

理科では、「水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す」に成果が見られるが、「物体にはたらく重力とつり合う力について説明できる」に課題が見られる。

小学校では、国語・算数・理科ともに中グループの割合が、全国よりも多くなっている。算数と理科については、下位グループの割合が、全国より若干多くなっている。

中学校では、国語が上位グループと中位グループの割合の合計で、約90%に近く、下位グループの割合は、全国に比べ非常に少ない状況である。数学・理科は、中位グループの割合が、全国より多い。下位グループの割合では、国語・理科と比較すると、数学が多くなっている。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的な生活習慣が身につけている児童生徒が多い。平日の家庭での学習時間が1時間以上の児童生徒が、小学校では43.7%（全国51.4%）、中学校では73.1%（69.5%）となっている。また、普段、読書を全くしない児童生徒は、小学校29.6%（全国26.3%）、中学校39.7%（全国39.0%）と小・中学校ともに全国よりも若干多くなっていて、3割～4割の児童生徒が、家では本に全く触れられていない状況である。

「家庭学習のすすめ」（教育委員会）や「家庭学習の手引き」（各学校）等を通じた啓発により、家庭学習の確実な定着や生活リズムチェックシート等での「家読時間の設定」による読書の促進を図る必要がある。

- 3 「将来にむけての夢や目標をもつこと」について、小学校では69.8%（全国79.8%）、中学校では77.8%（全国67.3%）と小学校では全国を下回り、中学校では全国を上回った。過去の傾向では、小学校が中学校より高く、しかも全国よりも高い傾向を示していたが、今回はこれまでと違った傾向となった。

多様性をもたせた職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成をめざすキャリア教育の工夫が必要である

- 4 「学校に行くのが楽しい」と回答する児童生徒について、小学校は、79.4%（全国82.9%）、中学校は、93.0%（全国85.4%）となり、小学校で全国を下回った。

よさや可能性を大切にす共感的指導や「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感できる体験的な活動をより一層工夫していく必要がある。

- 5 前年度（5年生まで、中学1・2年生まで）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したかについて、週1回以上と回答した児童生徒の割合が、小学校では、81.6%（全国83.2%）、中学校では、63.5%（全国80.3%）となっており、中学校で全国より大幅に下回った。今後も上富良野町ICT推進委員会と各学校の連携を通しながら、ICT環境の整備や効果的な活用の促進を図る必要がある。

- 6 授業中でのPC・タブレット端末などのICT機器を活用する場面について、「①自分で調べる場面」「②友だちと意見交換・交流する場面」「自分の考えをまとめ発表する場面」で比較すると、小学校においては①が全国とほぼ同様となっているが、②③については、小学校・中学校ともに全国より低くなっている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学習のねらいに応じて、各場面での効果的な活用を図り、授業改善していく必要がある。

- 7 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、PC・タブレット等のICTの活用状況は、小学校・中学校ともに、全国同様に対応を進めている。今後もいかなる状況下においても、児童生徒の学びが確実に保障できる体制づくりを推進していく必要がある。

- 8 コロナ2年目となった昨年度（令和3年度）での「運動会・体育大会」「学芸会・学校祭」「集団宿泊活動（宿泊研修・修学旅行等）」の実施状況については、全国の傾向と同様に、小学校・中学校ともに、内容や方法を変更して実施できた状況であった。児童生徒の学校生活の充実感、成長にむけた重要性等について、改めて認識しながら、今後も状況を鑑みつつ、学校行事の在り方を検討し推進していく必要がある。